新型コロナウイルス対応緊急支援助成

事業計画（実行団体）

事業名(主)	やまなし子どもの居場所づくり応援事業
事業名(副) ※任意	活動助成による「食」のインフラ支援

入力数　主　18 字　　副　17 字

実行団体名	特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会
資金分配団体名	一般社団法人全国食支援活動協力会

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域		分野	
☑	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☑	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☑	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☑	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☐	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☐	④働くことが困難な人への支援
		☐	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☐	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☐	⑥地域の働く場づくりの支援
		☐	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	☐	

入力数　0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_4.質の高い教育をみんなに
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2020年10月　～　2021年10月	**事業対象地域**	全国 ☐ 特定地域　（山梨県内　27市町村） ☑	**事業対象者：（事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む）**	・にじいろのわフードパントリー 活動実績で算出　令和2年5月13日～6月30日(21日間) 延８８４人　６団体６か所の実績延人数　①甲府美咲５１９人、②甲府朝日１７６人、③甲府貢川１２６人、④富士川２４人、⑤韮崎１８人、⑥敷島２１人	**事業対象者人数**	延人数884人 平均数147人 目標数1000人

目標

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)団体の目的　(200字以内)

「ボランティアの心を掘りおこし、これを組織化し、活動に結びつける」を実現するために、大きく次の二つのことに取り組んでいます。
①課題ごとのネットワークの構築➔課題への集中的アプローチ➔課題解決
②分野を超えたネットワークの構築➔課題への新たなアプローチの開発➔課題解決

(2)団体の概要・事業内容等

県民一人ひとりが現在の社会動向や身近な地域課題に関心を深め、その課題を自らの課題として自発的・自主的に取り組んでいく市民意識の高揚を図るとともに、関係機関や多様な団体等との連携、協働体制の強化と活動組織の支援・育成を図る。
①県民活動ネットワーク事業　②子ども支援プロジェクト　③地域活動支援プロジェクト
④各種助成金活用プロジェクト　⑤法人組織あり方検討プロジェクト

入力数 **(1)** 182 字　**(2)** 205 字

Ⅱ.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題　(800字以内)

やまなし地域こども食堂「にじいろのわ」(内藤陽一代表)は、令和元年８月に設立されました。　当初は９団体でしたが、広く連携を呼びかけ令和２年８月現在２３団体となっております。　「にじいろのわ」は、毎月一回の会合を通し、活動状況を紹介しあったり課題を出し合ったり、連携方策を探るなかで「互いに運営方法やアイデアが参考になっている」と言う(内藤代表)。　その中身は、寄付を受けた食材の融通や情報発信に取り組んでいるほか、新規開設者を受け入れ運営ノウハウを共有する一方で、子ども食堂の利用者に対し他団体の活動紹介も行っています。メンバーは「地域で顔の見える関係が増え、子どもたちが安心して生活できるように協力していきたい」とするなど、運営者の連携により「こども支援のわ」が、大きく広がりつつあります。
一方では、新型コロナウィルスの影響で、子ども食堂の活動が休止している状況にあります。「にじいろのわ」は、「フードパントリー」(ドライブスルー方式)による食品配付や１００円弁当の提供等、コロナ禍で創意工夫した活動を展開し、食堂利用者との接点を保っております。　まさに、今こそ「子どもの居場所づくりの必要性とコロナ禍のあり方を再確認」するなかで、こども食堂への中間支援こそが必要だと現場で切に感じております。具体的には「地域のハブ拠点へ冷凍冷蔵設備の設置」「地元企業や商店街からの食材寄付開拓とマッチング」「他団体と資源や情報等を共有し活動を推進する仕組みづくり」が必須課題となっております。　山梨県ボランティア協会は中間支援組織として、やまなし地域こども食堂グループ「にじいろのわ」と協働し、「子どもの居場所づくり応援事業」に取り組むことが、山梨のこども支援に貢献できるものと確信しています。

入力数 798 字

Ⅲ.事業内容

(1)事業の概要

現在のコロナ禍において、こども食堂の活動は中止せざるを余儀なくされている。こども食堂の運営を行っているＮＰＯや任意団体は、「活動の歩みを止めてはならない」と、創意工夫をし、ドライブスルー方式によるフードパントリーや100円弁当の提供等の活動を県下各地で展開しているところである。子どもたちの生活を支える「食」の確保が最優先課題とされるなかにおいて、食材・食品等を保管できる環境を整え、子どもたちに多様な食に触れてもらう食支援活動を継続的に実施できる仕組みづくりの必要性を実感し、「やまなし地域こども食堂グループにじいろのわ」と協働し、山梨における子どもの居場所づくりを整備していく。

入力数 291 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

冷凍・冷蔵庫を設置することで、今まで保持が困難であった生鮮食品の受入れが可能となり、子どもたちに新鮮な野菜や食品を提供することができる。また、衛生管理者が保管拠点で受け入れ対応することで、食品数量の把握等管理を行う。食材を共有するハブ拠点を2カ所から、パントリー事業を行う地域7カ所へ広げる。車の導入によって、今まで支援の行き届かなかった家庭へ配食することで、顔の見える支援を目指す。

入力数 192 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
山梨に子どもの居場所を応援するロジ拠点とハブ拠点が整備され、「地域こども食堂グループにじいろのわ」を中心としたネットワーク活動の拡大を図り、企業・団体等の寄付食品等開拓とマッチングを図り、地域・市町村においてこども食堂の活動が行われている。	（１）ロジ拠点・ハブ拠点の整備 （２）ネットワーク活動の拡大 （３）フードパントリーの拡大 （４）企業・団体の開拓とマッチング （５）他団体と共有する仕組みづくり	整備拠点のカウント 参画団体のカウント 実施フードパントリーのカウント 寄付数及びマッチングのカウント 活動状況のカウント	ロジ拠点1カ所　ハブ拠点2カ所 現在23団体➡27団体 現在7市町村9カ所➡27市町村27カ所 データーの記録化と見える化を図る 月次報告とコミュニケーションを図る	令和２年１２月 令和３年０９月 令和３年０９月 令和３年０９月 令和３年０９月

	時期
（１）ロジ拠点(1カ所)、ハブ拠点（2カ所）の設置と冷凍冷蔵庫等の整備を図る	**2020年10月～2021年9月**
①ロジ拠点　山梨県ボランティア協会（ダイタビル5Ｆ）　②ハブ拠点　会館なないろカフェ、甲府美咲店　活動に必要な機材の整備を行う。	
（２）ネットワーク活動の拡大　参画団体…R2年8月現在23団体→R3年9月27団体	
月１回の定例ミーティング充実(参画団体関係者)➡　①寄付物品情報の共有化　②課題解決方策の検討　③活動予定の確認	
（３）フードパントリーの拡大　実施箇所…R2年8月現在7市町9カ所→R3年9月27市町村27カ所	
①ドライブスルー方式　②１００円弁当方式　③新たな方式(実施主体の総意工夫による取り組み=新たなプログラム開発を図る)	
（４）企業・団体等の寄付食品等開拓とマッチングを図る	
現在➡　パルシステム山梨、株式会社サンフーズ、甲府市社会福祉協議会、甲府西ロータリークラブ等　今後➡　開拓とマッチング	
（５）他団体との情報共有・協働するための仕組みづくり	
全国食支援活動協力会(全国１５のロジ拠点含む)、山梨県ボランティア協会、山梨県社会福祉協議会、その他必要に応じて	

Ⅳ.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	（1）山梨県ボランティア協会　①やまなし地域こども食堂グループ「にじいろのわ」を協働団体とし冷凍・冷蔵庫等貸与。　②事務局業務の推進。 （2）やまなし地域こども食堂グループ「にじいろのわ」　①冷凍・冷蔵庫等をシェアーし事業の推進。　②ハブ拠点の設置・運営(必要経費継続的確保)
(2)他団体との連携体制	山梨県ボランティア協会は、やまなし地域こども食堂グループ「にじいろのわ」を協働団体として次の活動を行う。(組織内にこども支援室(仮称)設置予定)　（1）ハブ拠点(2か所)の設置と機材整備(冷凍庫、冷蔵庫、コンテナ、保冷カバー、畜冷剤、フラットカート、台車、保管庫、運搬車・24時間TV寄贈)　（2）企業・団体等の寄付食品等開拓とマッチングを図る(パルシステム山梨、株式会社サンフーズ、甲府市社会福祉協議会、甲府西ライオンズクラブ等)　（3）実行団体・事務局業務を図る(助成金申請・実績報告、助成金経理事務、事業活動データの共有化と見える化・情報発信、資金分配団体との連携)　（4）山梨県社会福祉協議会の支援と連携協働を図る(２４時間テレビチャリティーによる車輌の寄贈・支援を得、活動情報の共有化と連携協働を図る)
(3)想定されるリスクと管理体制	山梨県ボランティア協会は、新型コロナウィルス感染症対策・取り組み方針(ガイドライン)を策定し、関係者への周知・徹底・協力要請を行います。

Ⅴ.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有　☐	無　☑	有の場合その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無　☑	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				